

3年 単元名「わたしたちの海を知ろう ～どんな生き物がすんでいるかな～」（18時間）

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

身近な海と触れ合うことで親しみを持ち、ふるさとを大切にしていこうという気持ちを育む。

2 単元目標

九十九湾での磯観察や、見つけた生き物を記録したハンドブック制作を通して、身近にある海のすばらしさに気付くことができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との かかわりに関すること
評価規準	① 海の生き物に興味を持ち、課題を見いだしている。 ② 課題について必要な情報を適切に収集し、計画的に調べている。 ③ 調べたことや考えたことを、相手意識を持って分かりやすく表現している。	① 調べたことを他の地域の人に伝えるために活動している。	① 課題解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	小木の海のよさについて話し合う。 ・小木の海はどんな海か、自分たちの考えを話し合う。	
2 ～ 6	小木の海の様子について知る。 ・乗船体験を通して、海上から小木の町や海の様子を観察したり、海の深さを調べたりする。 ・小木の海の特徴を浦田先生から聞く。 ・調べたことを地図にまとめる。	・海上保安署に里海研究所を通して連絡してもらい、事前に乗船者名簿を提出。 ・救命胴衣を着用する。
7 ～ 10	小木の海の生き物について調べる。 ・小木の海にはどのような生き物がいるのかを予想する。 ・のと海洋ふれあいセンターで磯観察をし、どんな生き物がいるのか調べる。 ・調べたことをワークシートにまとめる。	・生き物の写真を撮る。 ・児童がハンドブック制作時に想起しやすいように、生き物が動く様子を動画に残したり、海そうを持ち帰り冷凍保存したりする。

11	ハンドブックの内容について話し合う。 ・小木の海のすばらしさを誰に伝えたいか考える。	・構成を考えるための資料として、複数のハンドブックを準備する。
12	・小木の海のすばらしさを伝えるには、どんな内容のハンドブックであればよいかを考える。	
13	小木の海の良さを知らせるために、小木の海に生息する生き物のハンドブックを制作する。	・生き物の動画や海藻を見て、生き物の様子を想起できるようにする。 ・国語科「ざいりょうを集めてほうこくする文章を書こう」と連携する。
18	・生き物のページを作る。 ・「はじめに」「九十九湾のコーナー」「索引」「表紙・裏表紙」に分業してページを作る。	
	・製本する。	

外部連携／教材等

- ・のと海洋ふれあいセンター
- ・能登里海教育研究所
- ・金沢大学臨海実験所
- ・能登海上保安署
- ・能登町立公民館（15施設）
- ・コンセルのと
- ・柳田教養文化館

【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』

5 活動の様子



乗船体験



磯観察



ハンドブック作成

6 成果・課題

- 児童にとっての身近な海や町の様子を海上から観察することで、自分たちの海や町を新しい視点で捉えることができた。それによって、小木の海や町について改めて考える意欲につながった。
- 能登町の町民に向けてハンドブックを提示することは児童の意欲に繋がった。また、ハンドブックを夏休み中に展示してもらえたことで、各地域から好評をいただき、それが児童の達成感にも繋がった。
- ▲野外での体験活動が多くなるので、体調面や安全面での配慮を事前に確認する必要がある。海上にでる場合は、風の影響で体感温度が下がるので上着を持たせた方がよい。
- ▲時間に余裕があれば、ハンドブック展示協力施設への依頼文の作成や電話依頼をさせたかった。

7 子どもたちの反応やミニ感想

- ・船に乗って海の水の深さを調べました。九十九わんの中はなみが弱く、九十九わんの外はなみが強いことが分かりました。海がすけてきれいでした。九十九わんはすごいと思いました。また船に乗りたいです。
- ・ハンドブックがやっと出来上がりました。めちゃくちゃうれしいです。家に持って帰ってじまんしました。はやくうしつの人ややなぎ田の人たちに読んでほしいです。